



<プレスリリース>

2026年4月17日
スペースワン株式会社

宇宙戦略基金採択事業における補助金交付決定について

2026年4月17日 – 小型ロケットの打上げにより「宇宙宅配便®」の実現を目指すスペースワン株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長 豊田正和、以下「スペースワン」）は、2025年12月19日に採択された国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構による「宇宙戦略基金」（公募テーマ：[高頻度打上げに資するロケット製造プロセスの刷新](#)）について、以下の通り、交付決定を受けましたのでお知らせいたします。

補助事業名：高頻度打上げに資するロケット製造プロセスの刷新

補助事業課題名：ロボティクス技術を活用した固体燃料モータの製造プロセスの刷新

補助金交付決定額：2,657,400,000円

代表取締役社長 豊田正和のコメント

スペースワンは、2020年代に年間20機、2030年代中には年間30機の打上げを目標としています。この目標の達成には、技術・製造・運用を含めた総合的な体制の構築が不可欠です。本事業では、固体燃料ロケットであるカイロスの中核部品である固体燃料モータの製造工程にロボティクス技術を導入し、製造の効率化と品質の安定化を図ります。これにより、国際競争力のある宇宙輸送サービスの実現に向け、事業基盤の強化を図ってまいります。

〔お問い合わせ先〕

スペースワン株式会社広報担当

Email: info@space-one.co.jp

スペースワンについて

スペースワンは、小型人工衛星打上げに特化した宇宙輸送サービスを提供しています。和歌山県串本町・那智勝浦町に位置する専用のロケット発射場「スペースポート紀伊：SPK」と、小型ロケット「カイロス：KAIROS」で、2020年代に年間20機、2030年代中に30機の打上げサービスを提供する「宇宙宅配便®」を目指しています。2024年にカイロスロケット初号機・2号機の、2026年3月に3号機の打上げをそれぞれ実施しました。

<https://www.space-one.co.jp/>

スペースポート紀伊について

「スペースポート紀伊：SPK」は、本州最南端の和歌山県串本町・那智勝浦町に位置する日本で初めての民間のロケット射場です。自社専用射場であるSPKは、南方と東方に開けた地理的特性を活かし、打上げる軌道やタイミングに柔軟に対応できる点が特長です。これにより、多様化・高度化する宇宙輸送サービスに対し、機動的なサービス提供を可能としています。

宇宙ビジネス市場の世界的な拡大に伴い、宇宙輸送サービスへの需要は増加の一途をたどっています。とりわけ、今後は多数の小型衛星を一体的に運用するコンステレーションの普及により、打上げ需要がさらに加速すると見込まれています。SPKは自社専用射場と小型ロケットを組み合わせた宇宙輸送インフラを基盤に、国内外の多様なユーザーのニーズを取り込みながら、宇宙の力で社会の課題を解決し、人々の暮らしを豊かにする、日本発の宇宙輸送インフラの実現を目指しています。

<https://www.space-one.co.jp/site/>